

広島都市学園大学地域子育て支援拠点事業に関する一考察

— オープンスペース「いーぐる」利用者への第2・3回質問紙調査から —

富田 道子・児嶋 芳郎・深澤 悦子・田丸 尚美
杉山 直子・國清 あやか・須崎 朝子・石橋 由美

広島都市学園大学 子ども教育学部

要 旨

オープンスペースを利用している保護者を対象に、質問紙調査を2014年1月～2月、2015年8月～9月の2回実施し、以下の結果を得た。第一に、主な利用保護者の年代は30代であり、第1子のみが利用している割合は約8割であった。第二に、オープンスペースを知ったきっかけは、「口コミで知った」の回答がもっとも多かった。第三に、オープンスペースの利用理由として多く挙げられた項目は「子どもが喜ぶから」「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから」「設備や遊具が充実しているから」「ストレス解消やリフレッシュできるから」「同じような年齢の子どもとの交流ができるから」「子どもを集団になれさせるため」であった。第四に、オープンスペースに対し、8割以上の利用保護者が「満足」と回答した。第五に、子どもについての気がかり・心配ごととして、5割以上の者が「食事」を挙げた。第六に、利用保護者自身のこととして、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」「子どもにイラッとすることがある」の回答割合が高いことがわかった。一方、もっとも回答割合の低かった「子どもに手をあげて後悔することがある」について、頼れる親族がいながらも、約3割の利用保護者が子どもに手をあげてしまうような状況に置かれていることが明らかになった。

キーワード：地域子育て支援拠点事業、オープンスペース、利用保護者

はじめに

2012年8月に「子ども・子育て支援法」、「認定こども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」、いわゆる「子ども・子育て関連三法」が成立した。これらの法律が2015年4月から「子ども・子育て支援新制度」となって施行され、新制度における市町村子ども・子育て支援事業の5か年計画が示されている。

内閣府によると、新制度では、保護者が子育てについての第一義的責任を有するという基本認識のもと、乳幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することを目的に、すべての子どもや子育て家庭の状況に応じたさまざまな支援を市町村が中心となって行うとされている。そのポイントの1つに、地域の実情に応じた子ども・子育て支援の質・量の充実に努めることを挙げ、とりわけ地域子育て支援拠点事業においては、基本事業のほかに出張ひろばの実施や地域支援の様々な取り組みが具体的に示された。

このような社会の動きのなかで、広島都市学園大学こどもケアセンター「いーぐる」が

地域子育て支援拠点事業として広島市の公募型常設オープンスペースに選定され、2014年7月に大学内に開設された。

本稿では、内閣府が推進する子育て支援の質の充実に念頭に置きながら、オープンスペース「いーぐる」（以下、オープンスペースと称す）における利用者ニーズと地域子育て支援実践の成果について、利用者への質問紙調査から考察する。

1. 研究方法

(1) 調査の対象者と実施時期・調査方法

質問紙調査対象者は、オープンスペースを利用している保護者であり、調査時期は、第2回が2015年1月～2月（94名、回収率100%）、第3回は2015年8月～9月（103名、回収率100%）であった。また、2014年7月から2015年6月までの1年間の利用者の居住地は、広島市南区が77.7%と圧倒的に多く、次いで南区に隣接する中区が16.1%であった（詳細は、こどもケアセンター運営委員会（2015）参照）。

調査方法は、本紀要第1号での報告（富田（2014）参照）と同様に、オープンスペースを利用する保護者に調査依頼状と質問紙を手渡し、調査の目的とともに、調査依頼状の内容に目を通した上で、フェイスシートの「調査に同意する・しない」のいずれかに印し、同意した者のみ回答するよう説明した。

(2) 倫理的配慮

「調査に同意する」者は各調査項目に回答後、また、「調査に同意しない」者は未記入のまま、質問紙を所定の場所に設置した箱に提出する、という手順を説明した。なお、回答中の利用者がある場合、プライバシー保護のために調査員はオープンスペース内にいないことを心掛け、さらに、質問紙を回収の際、子育てアドバイザーや他の利用者に回答内容が目につれない場所に箱を設置した。

なお、本調査は広島都市学園大学倫理審査委員会の承認を得ている（承認番号：第2014024、2015021）。

(3) 質問紙の内容修正

オープンスペース利用者への第1回質問紙調査では、まずオープンスペース「いーぐる」と同じ広島市南区にある宇品公民館を通して、館内で活動する5つの子育てサークルに聞き取り調査を行い、その結果を念頭に、「UFJ総合研究所の子育て支援等に関する調査（厚生労働省雇用均等・児童家庭局委託調査）」の項目等を参考に質問紙を作成した（富田（2014）参照）。

その後、開設年度に実施した第2回調査では、第1回調査で使用した質問項目に「利用者満足度」を追加し、また「気がかりなこと」の選択肢のなかに「断乳」「トイレトレーニング」「排便」の項目を加えた。さらに、第1回調査の質問項目で「いーぐるを知ったきっ

かけ」と「いーぐるへ行ってみようと思った理由」が混在していたため、これらの質問を分けて設定した。「いーぐるに行ってみようと思われた理由」についての22項目は、それぞれ「最も当てはまる」「当てはまる」「当てはまらない」の3件法で答えるものとした（詳細は後述する）。

さらに第3回調査では、新しい項目として「これまでの利用回数」と「利用保護者自身のこと」の質問項目を追加し、「気がかりなこと」の選択肢に「子どもは思うようにならないと私に当たる」を加えた。

「利用保護者自身のこと」の項目では、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」「子どもを連れて外出したいと思うが、疲れてしまうためできない」「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」「子どもにイラッとすることがある」「子どもに手をあげて後悔することがある」を取り上げ、それぞれ「よくある」「時々ある」「たまにある」「ない」の4件法で回答を求めた。

（4）分析方法

質問紙調査における回答は、SPSS Ver.22を使用して基礎統計量と回答の割合で集計し、全体的な傾向を把握したあと、項目間の関連性をみるためにクロス集計を行った。

2. 結果と考察

（1）属性・家庭環境

オープンスペース利用者に関する属性と家庭環境は次の通りである。

まず、第3回調査から追加した「これまでの利用回数」について、「初めて利用した」が22名（21.4%）、「2～4回」が22名（21.4%）、「5回以上」が59名（57.2%）であることが明らかとなり、利用保護者の5割以上がオープンスペースをよく利用していることがわかった。

利用保護者の年代は、第2・3回調査ともに30代がもっとも多いが、第3回では20代や40代の割合がやや増えている（表1）。また、利用する子どもの出生順位をみると、第一子のみ利用が第2回調査では77.7%、第3回調査では81.6%であった（表2）。利用する子どもの年齢構成は1年間を平均して最も多いのが1歳台で50.3%、次いで0歳台が29.4%、2歳台は14.6%となっている（詳細は、こどもケアセンター運営委員会（2015）参照）。

利用者のほとんどが核家族であり、居住形態として何かあった時にすぐに頼れる（近居している）親族の有無では、パートナーと同居している場合、「頼れる親族がいる」と回答した者が第2回は69.6%、第3回が80.2%であった。また、ひとり親世帯（ただし、すべてのケースで保護者の母親、父親、その他の人と同居している）の場合、いずれの回でも全員が「頼れる親族がいる」と回答した（表3）。

（2）オープンスペースを知ったきっかけ

オープンスペース「いーぐる」を知ったきっかけを尋ねた結果は、表4の通りである。

表1 保護者の年代

年代	第2回 2015.1～2	第3回 2015.8～9
	人数 (%)	
20代	21 (22.3%)	28 (27.8%)
30代	69 (73.4%)	65 (63.1%)
40代	4 (4.3%)	10 (9.1%)
計	94 (100%)	103 (100%)

表2 利用者（子ども）の出生順位

利用者	第2回 2015.1～2	第3回 2015.8～9
	人数 (%)	
第1子のみ	73 (77.7%)	84 (81.6%)
第1子と第2子	12 (12.7%)	9 (8.7%)
第2子のみ	6 (6.4%)	8 (9.8%)
第2子と第3子	0 (0.0%)	2 (1.9%)
第3子のみ	3 (3.2%)	0 (0.0%)
計	94 (100%)	103 (100%)

表3 家族構成と頼れる親族との関連

	家族構成	頼れる親族	
		あり 人数 (%)	なし 人数 (%)
第2回 2015.1～2	パートナーと同居	64 (69.6%)	28 (30.4%)
	ひとり親家庭	2 (100.0%)	0 (0.0%)
第3回 2015.8～9	パートナーと同居	81 (80.2%)	20 (19.8%)
	ひとり親家庭	2 (100.0%)	0 (0.0%)

表4 オープンスペースを知ったきっかけ(複数回答)

項 目	第2回 2015.1～2	第3回 2015.8～9
	人数 (%)	人数 (%)
口コミ	43 (45.7%)	32 (27.8%)
大学のチラシや看板を見て	15 (16.0%)	20 (17.4%)
インターネット	20 (21.3%)	25 (21.7%)
子育て情報誌	8 (8.5%)	8 (7.0%)
区役所や公民館	10 (10.6%)	8 (7.0%)
市の広報紙	2 (2.1%)	4 (3.5%)
その他	6 (6.4%)	20 (17.4%)

第2, 3回調査ともに同じ傾向を示しており, 「口コミで知った」の割合がもっとも高かった。なお, 第3回の「その他」の記述内容を見ると, そのほとんどが「友だちから教えてもらった」と書かれており, この17.4%を「口コミ」に加えると第2回調査とほぼ同じ割合になる。次いで「インターネット」「大学のチラシや看板を見て」の順になっている。

(3) オープンスペースの利用理由

オープンスペースの利用理由の結果は, 表5の通りである。

利用保護者が利用理由として多く挙げた項目は, 第2, 3回調査ともに3件法の平均値でみると同じ傾向が確認できた。具体的には「子どもが喜ぶから(第2回2.80, 第3回2.77)」、「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから(第2回2.66, 第3回2.75)」、「設備や遊具が充実しているから(第2回2.62, 第3回2.72)」、「ストレス解消やリフレッシュできるから(第2回2.61, 第3回2.78)」、「同じような年齢の子どもとの交流ができるから(第2回2.52, 第3回2.57)」、「子どもを集団になれさせるため(第2回2.53, 第3回2.57)」の数値が高かった。また, 第3回調査結果で第2回よりも顕著な変化が見られたのは, 「日替わりで, 保育士さんの『おかえりの会』¹⁾があるから」と「親子で絵本を楽しめるから」の項目であった。とりわけ前者は平均値が0.2以上上がり, 「最も当てはまる」と「当てはまる」を合わ

表5 オープンスペース利用理由

項 目	第2回調査 2015.1~2				第3回調査 2015.8~9			
	当てはまらない(%)	当てはまる(%)	最も当てはまる(%)	3件法 平均値	当てはまらない(%)	当てはまる(%)	最も当てはまる(%)	3件法 平均値
自分の友人を作ったり、友人と交流	27.6	59.6	12.8	1.85	23.3	62.1	14.6	1.91
悩みを気軽に話せる場がほしかった	23.4	57.4	19.2	1.96	11.7	65.0	23.3	2.12
相談に対してアドバイスがもらえる	22.3	60.6	17.1	1.95	20.4	59.2	20.4	2.00
いーぐるの通信・SNSから情報が得られる	46.8	50.0	3.20	1.56	47.6	44.7	10.7	1.60
子どもが喜ぶから	3.20	13.8	83.0	2.80	0.00	23.3	76.7	2.77
同じような年齢の子どもとの交流	7.40	33.0	59.6	2.52	3.90	35.0	61.1	2.57
子どもを集団になれさせるため	6.40	34.0	59.6	2.53	4.90	33.0	62.1	2.57
育児休暇後の復職に向けて、子どもの保育所入所の準備として	62.8	18.1	19.1	1.58	67.0	20.4	12.6	1.46
幼稚園就園の準備として	64.9	21.3	13.8	1.49	71.8	22.3	5.90	1.34
幼稚園選びのための情報を得る	77.7	13.8	8.50	1.31	71.8	26.2	2.00	1.30
ストレス解消やリフレッシュ	2.10	35.1	62.8	2.61	0.00	22.3	77.7	2.78
設備や遊具が充実している	3.20	31.9	64.9	2.62	0.00	28.2	71.8	2.72
親子で絵本を楽しめる	14.8	54.3	30.9	2.16	4.90	54.4	40.7	2.36
親子でいろいろなおもちゃで遊べる	2.10	29.8	68.1	2.66	1.90	21.4	76.7	2.75
親子で砂遊びができる	31.9	40.4	27.7	1.96	29.1	38.8	32.1	2.03
季節感のある室内装飾を楽しめる	26.6	57.4	16.0	1.89	21.4	56.3	22.3	2.01
身体計測ができる	27.7	50.0	22.3	1.95	20.4	54.4	25.2	2.05
月曜日に子育て相談がある	47.9	45.7	6.40	1.59	52.4	44.7	2.90	1.50
講座や講習会有る	40.4	44.7	14.9	1.74	35.9	55.3	8.80	1.73
日替わりで、保育士さんの「おかえりの会」がある	51.1	34.0	14.9	1.64	33.0	41.7	25.3	1.92
あたたかく迎えられ、ほっと心がなごむ	3.20	43.6	53.2	2.50	3.90	34.0	62.1	2.58
安心して自分がトイレに行ったり、下の子の授乳ができる	34.0	30.9	35.1	2.01	25.2	35.0	39.8	2.15

せた割合は18.1%増えていることが明らかになった。

(4) オープンスペース満足度

オープンスペースについて満足しているかどうかを尋ねたところ、第2回調査では、「満足」が78名(83.0%)、「ふつう」が13名(13.8%)、「不満」が3名(3.2%)となり、第3回調査では、「満足」が84名(81.5%)、「ふつう」が15名(14.6%)、「不満」が4名(3.9%)という結果になった。いずれの調査でも8割以上の利用者が満足と回答したことがわかった。

(5) 子どもについての気がかり・心配ごと

子どもについての気がかり・心配ごとを尋ねた結果は、図1の通りである。

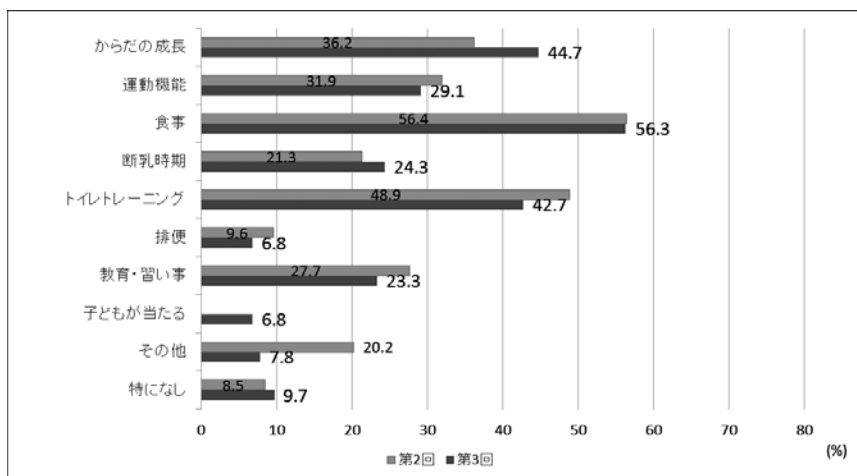


図1 気がかり・心配ごと（複数回答）

気がかり・心配ごと「食事」を挙げた者は、第2回調査では56.4%（94名中53名）、第3回調査では56.3%（103名中58名）ともっとも高かった。また、「からだの成長」は第2回では36.2%であったが、第3回では44.7%と8.5ポイント上がった。さらに、「トイレトレーニング」は第2回が48.9%、第3回では42.7%と6.2ポイント下がったが、気がかり・心配ごととして4割以上の利用者がこれを挙げていることがわかった。

「その他」の記述内容は「子ども同士の関わり」「子どもの発達」「子どもの健康」「親自身の悩み」に分類でき、とりわけ各回の調査で目立ったのは、「子どもの発達」のいやいや期に関わる記述であった（表6）。

さらに、気がかり・心配ごととして「食事」を挙げた利用者とその詳細を尋ねたところ、「好き嫌いがある」（第2回18.1%、第3回16.5%）、「かまない」（第2回18.1%、第3回15.1%）、「そもそも私は料理が苦手」（第2回16.0%、第3回16.5%）と続き、他に「食べる量が少ない」（第2回11.7%、第3回14.6%）や「食物アレルギーがある」（第2回9.6%、第3回3.9%）という回答が得られた。

(6) 食事に関する気がかり・心配ごと—「その他」の自由記述

子どもの食事についての気がかり・心配ごとで、「その他」に記述された内容は、第2回調査では「食べ方」、第3回調査では離乳食の「進め方」に関するものが多かった（表7）。

表6 気がかり・心配ごとについて「その他」の自由記述

分 類	記 述 例
子ども 同士	他の子どもとの関わり方
	どうしたら友だちと仲良く遊べるか
子どもの 発達	言葉の発達・遅れ
	いやいや期が始まり、かわいく思えないことがある
	後追い
	しつけの時期・方法
	同じ月齢の子どもたちと交流する機会がないので、発達に影響しないか
子どもの 健康	靴の選び方と履かせる時期
	指先に力を入れるのか、爪が折れたり上に反り返っていて、治るか心配
	肌荒れ
	病院や歯科の相談
	睡眠が浅い(生活リズム)
親自身の 悩み	夜中は3時間ごとの授乳が続いていて不眠気味
	夜泣きで寝られない

(7) 気がかり・心配ごとと第一子の年齢との関連

直近の第3回調査に特化し、第一子の年齢と気がかり・心配ごとの関連を見たところ、「食事」については第一子が0～2歳台である利用保護者の5割から8割近くが気がかり・心配と回答しており、「からだの成長」は第一子が0～1歳台である利用保護者の約5割から7割近くが、「トイレトレーニング」は第一子が1～2歳台である利用保護者の5割が気がかり・心配だと回答した(表8)。

さらに、「食事」について詳細を尋ねているため、第一子の年齢別に特徴を探ったところ、例えば「かまない」という項目について、0～2歳台の子どもの利用保護者が該当すると回答し、「その他」の項目で「食べムラがある」と記述した利用保護者の第一子は1～2歳台であることが明らかになった。

(8) 利用保護者自身のこと

1—(3)で述べたように、第3回の質問紙に「利用保護者自身のこと」の5項目を新設した。

結果は表9の通りである。ただし、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」の項目は、第一子のみの世帯には答えられないため、その場合は「ない」にチェックするよう指示をした。2—(1)の表2で報告したように、第3回調査に協力してくれ

表7 食に関する気がかり・心配ごとについて「その他」の自由記述

分類	記述例	記述数	合計	記述数	合計
		第2回	2015.1～2	第3回	2015.8～9
食べ方	食べない。あまり食べない。食べる意欲がない。	2	11	0	7
	食欲にムラがある。	2		3	
	食べる時あそんで、時間がかかる。	0		4	
	食べ過ぎ（毎食後、食べられないのが悲しいのか、必ず大泣きする）。	3		0	
	口の中にいっぱい詰め込んで、おえっとなっている。	2		0	
	早食い。	1		0	
	のど越しの良い豆腐など、丸呑みしてしまう。	1		0	
進め方	バランスよく栄養が摂れているかわからない。個人差があるのはわかるが、どのくらいの量をたべればいいのか。	1	4	6	11
	離乳食の進め方が色々ありすぎて、正しいのかどうか悩む。	2		1	
	月齢に合った食べものにはどのようなものがあるのか。	0		3	
	幼児食への移行時期がわからない。	0		1	
	大人とほぼ同じものを食べているが幼児食として別に作るべきか。	1		0	
調理技術・方法	料理のレパートリーがなく、味付けをどれくらいにしていいいか、わからない。	3	5	2	6
	成長に合わせて食べるものを増やしたいが、新しいものになかなか挑戦できない。	1		0	
	離乳食の硬さが合っているのか不安	1		1	
	大きい食材、かたい肉など口から出す。吐き出す。	0		2	
	いつまでも小さいものしか食べない。かみ切れない。	0		1	
嗜好	味覚があるのかかわからない。	1	3	0	0
	野菜・肉を食べない。パンが嫌い。形を変えて子どもが好きそうなものを作ってみても、一口も入れない	2		0	
健康・安全	ものすごく食べる。でも体重が増えない。	0	2	1	2
	親がアレルギーがあるので、子どもに出ないか不安。	0		1	
	卵アレルギー。代替食としてどんなたんぱく質を摂ったら良いか。	2		0	

表8 気がかり・心配ごとと子どもの年齢との関連（複数回答）

第1子年齢 気がかり・心配項目	0歳	1歳	2歳	3歳
	人数（％）	人数（％）	人数（％）	人数（％）
食事	18（75.0％）	24（50.0％）	12（66.7％）	0（0.0％）
からだの成長	16（66.7％）	23（47.9％）	4（22.2％）	0（0.0％）
トイレトレーニング	4（16.7％）	26（54.2％）	9（50.0％）	2（28.6％）
第1子の数	24	48	18	7

表9 利用保護者自身のこと

	よくある	時々ある	たまにある	ない
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
ダメと制止する言葉が多くなる	37 (35.9%)	38 (36.9%)	21 (20.4%)	7 (6.8%)
外出したいが疲れてしまい出られない	6 (5.8%)	32 (31.1%)	37 (35.9%)	28 (27.2%)
上の子を我慢させてしまう (第1子の子のみの家庭を除く)	10 (52.6%)	4 (21.1%)	3 (15.8%)	2 (10.5%)
子どもにイラッとすることがある	18 (17.5%)	38 (36.9%)	32 (31.1%)	15 (14.5%)
子どもに手をあげて、後悔してしまうことがある	4 (3.9%)	9 (8.7%)	17 (16.5%)	73 (70.9%)

表10 利用保護者自身のことと頼れる親族の有無との関係

項 目			ダメが多い				外出される				上の子我慢				イラッとする				手をあげる			
選択肢			よく	時々	たまに	ない	よく	時々	たまに	ない	よく	時々	たまに	ない	よく	時々	たまに	ない	よく	時々	たまに	ない
頼れる 親族	あり	人数	30	31	15	6	6	25	29	22	9	3	3	67	14	30	26	12	4	8	14	56
		(%)	36.6	37.8	18.3	7.3	7.3	30.5	35.4	26.8	11.0	3.7	3.7	81.7	17.1	36.6	31.7	14.6	4.9	9.8	17.1	68.3
	なし	人数	7	7	6	1	0	6	8	7	1	1	0	19	4	8	6	3	0	1	3	17
		(%)	33.3	33.3	28.6	4.8	0.0	28.6	38.1	33.3	4.8	4.8	0.0	90.5	19.0	38.1	28.6	14.3	0.0	4.8	14.3	81.0

た利用者103名のうち84名が第一子の子のみの世帯であるため、ここでは本項目に該当する19名の回答割合を示した。

「よくある」「時々ある」の回答割合に注目すると、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまふ」が72.8%,「子どもにイラッとすることがある」が54.4%と高く、次いで「子どもを連れて外出したいと思うが、疲れてしまふためできない」が36.9%と続く。第一子の子のみの世帯を除いた利用保護者自身については、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまふことがある」がもっとも高かった。

(9) 利用保護者自身のことと頼れる親族の有無との関連

利用保護者自身のことの5項目と、「何かあった時にすぐに頼れる（近居している）親族の有無」との関連を見た結果は、表10の通りである。

「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまふ」「子どもを連れて外出したいと思うが、疲れてしまふためできない」「子どもにイラッとすることがある」は、頼れる親族の有無に関わりなく同じ傾向がみられるが、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまふことがある」の「よくある」「時々ある」「たまにある」の回答者の割合は、「頼れる親族あり」が「頼れる親族なし」より10ポイント高いことがわかった。さらに、「子どもに手をあげて後悔することがある」の場合、「頼れる親族あり」が「頼れる親族なし」よ

り13ポイント高いことがわかった。さらに「子どもに手をあげて後悔することがある」を精査したところ、「頼れる親族あり」のなかで「よくある」「時々ある」「たまにある」の回答者に、ひとり親世帯の利用保護者は含まれていないことも明らかになった。

(10) 自由記述から

質問紙最後の自由記述には、毎回多くの感想が寄せられた。

具体的には、「いつも暖かく迎えていただいて、とても癒されています。」「いつもとても楽しく利用させていただき満足しています。」「保育士さんが優しく大好きです。手作りおもちゃも勉強になります。」「初めて利用させて頂きました。保育士さんの質の高さに驚き、また利用させて頂きたいと思いました。」「室内外に季節感があり、保育士さんは子どもの好みや性格、発育状態まで把握して下さっていて、いつも頼りにしています。」「とても落ち着く雰囲気で、来ていてリフレッシュします。今後ちょっとした不安や悩みに相談にのってもらえたらと思います。」「いーぐるに来るようになり、子どもの友だち、そして自分の友だちをつくることができました。友だちがいることで悩みを相談したり、今の気持ちを共有したりと、毎日が充実するようになりました。これからも私のような人が少しでも多くできるよう、いつまでもこのいーぐるがあり続けるようお願いいたします。」などがあった。

3. 考察

オープンスペース開設からまもなく1年半になる。2015年度に入ると、オープンスペースを利用していた子どもの成長に伴い幼児向けサークルへ移った方、近隣住民の転出・転入、オープンスペースの認知度が高まり新規利用者が増えるなど、利用親子の顔ぶれが変わってきた。

しかし、属性や家庭環境は第1回調査時とそれほど変わらない。たとえば、利用保護者の年代別割合を見ると30代がもっとも多く、ほとんどがパートナーと同居しており、核家族世帯の割合が非常に高い。子どもは第一子のみ、という世帯が8割に上り、利用者の約7～8割には何かあった時にすぐに頼れる（近居している）親族がいる。

オープンスペースを知ったきっかけは、「口コミ」と回答した利用者の割合がもっとも高く、45%を超えていた。次いで、ホームページが挙がっており、facebookが活用されている様子も自由記述から窺えた。

オープンスペース利用の主な理由は、第2、3回調査ともに「子どもが喜ぶから」「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから」「設備や遊具が充実しているから」「ストレス解消やリフレッシュできるから」「同じような年齢の子どもとの交流ができるから」「子どもを集団になれさせるため」であることが明らかになった。また、「日替わりで、保育士さんの『おかえりの会』があるから」と「親子で絵本を楽しめるから」は「最も当てはまる」と「当てはまる」を合わせた割合が調査を重ねるごとに高まっている。絵本の入れ替えや、保育

士の日替わり企画「おかえりの会」への熱意が反映されていると思われる。

オープンスペース満足度について、第2, 3回調査ともに「満足」と回答した者が8割以上いることが明らかとなった。一方、「不満」と回答した利用者の質問紙最後の「自由記述」を精査してみると、非常に好意的な内容を記述していた。恐らく、選択肢の並べ方を直前の設問選択肢のように好意的な内容を最初に置かず、「不満」「ふつう」「満足」とあえて逆の順番に設定したため、前の設問に引きずられたのではないかとと思われる。

子どもについての気がかり・心配ごとについて、第2, 3回調査ともに5割以上の利用者が「食事」を、次いで「トイレトレーニング」「からだの成長」を挙げた。また、「その他」の記述内容で目立ったのは、子どものいやいや期にどう対応したらよいかというものであった。

次に、気がかり・心配ごととして「食事」を挙げた利用者にはその詳細を尋ねたところ、「好き嫌いがある」「かまない」「そもそも私は料理が苦手」「食べる量が少ない」にチェックした回答者の割合は調査時期や調査対象者の違いによる差はなく、悩みが万遍なく存在していることがわかった。

ベネッセ教育総合研究所の報告『第2回妊娠出産子育て基本調査（横断調査）報告書2011年』によると、「子育ての悩みは、子どもの年齢によって異なる」と報告され、なかでも0歳児でもっとも割合が高いのは「生活リズムが規則的にならない」の30.4%、次いで「離乳食・幼児食の与え方がわからない」の27.5%であり、食事の悩みについては1歳児の6.2%、2歳児の2.5%と比べてはるかに高いとまとめられている。しかし、本調査の場合、子育ての悩みと子どもの年齢との間に明確な関連は見られなかったが、第一子の年齢と気がかり・心配ごとはやや関連があるということがわかった。初めての子育てであることが気がかり・心配ごとにつながっていることが推測される。

子どもの成長・発達の仕方は一人ひとり違いがあって当たり前であり、その対応の仕方も多様である。また、子どもが育つ家庭環境は、食事、トイレトレーニング、からだの成長と密接に関係する。典型的な発達目安に応じた支援方法を示すだけでは解決に至らず、利用保護者一人ひとりと丁寧に関わり、子育ての当事者として主体性を持てるように支援するには、さらに保護者同士の交流を促し、保護者同士の困っていることの共有や情報交換の場が必要であることが示唆された。

利用保護者にご自身について尋ねたところ、子どもに対し「よくある」「時々ある」と回答した割合は、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまふ」「子どもにイラッとすることがある」が高いことがわかった。一方、もっとも回答割合の低かったのは「子どもに手をあげて後悔することがある」であるが、「たまにある」も含め、約3割の利用保護者が子どもに手をあげてしまうような状況に置かれていることも明らかになった。また、第一子のみの世帯を除いた利用保護者については、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」の回答割合がもっとも高かった。

さらに、「子どもに手をあげて後悔することがある」と頼れる親族の有無との関連を精

査したところ、「頼れる親族なし」の利用者よりも、「頼れる親族あり」と回答したパートナーと同居している利用保護者の方が、子どもに手をあげる割合が13ポイント高いことも明らかになった。一般的に、頼れる親族がいる者は心に余裕をもって子どもに接することができると思われがちであるが、本調査では必ずしもそうとはいえないことが確認できた。

田丸（2013）は、「育児のサポート相手として『パートナー』と『友人・知人』を選択した場合に有意に育児不安が低い」という調査結果を明らかにし、妻、夫それぞれの実家の親にサポートを求めながらも、育児不安の軽減につながっているのが夫や友人・知人であることを報告している。この結果を本調査結果である「『頼れる親族なし』の利用者よりも、『頼れる親族あり』と回答したパートナーと同居している利用保護者の方が、子どもに手をあげる割合が13ポイント高かった」と照らし合わせてみると、子どもに手をあげてしまう利用保護者の背景にはパートナーの子育てや家事への協力不足が推測され、さらに、利用保護者の多くが新興住宅地である広島市南区を居住地と回答していることから、結婚後に南区へ住まいを移したために近隣に親しい友人・知人がいないことや、「頼れる親族」がストレッサーになっていることも推測される。あるいは、子どもに手をあげてしまう原因は、サポートの存在の有無だけでなく、子どもの年齢、子どもの特性、母親自身の特性にあるとも考えられる。

いずれにしても、本調査ではパートナーの育児や家事への関わり方、母親の人間関係などについて尋ねていないため、どのような要因が子どもに手をあげる行動に関連しているのか不明であり、今後検討の余地がある。

最後の自由記述からは、オープンスペースの環境や保育士に対する満足感と期待が伝わってきた。本調査結果について保育士に感想を求めたところ、「利用理由を知り、スタッフの声かけや帰りの見送りなどが、利用者にとって『大切にされている』実感につながっていると感じた。」「涙が出るほどうれしかった。」という声があった。

4. まとめと今後の課題

オープンスペースを利用している保護者を対象に、質問紙調査を2014年1月～2月、2015年8月～9月の2回実施し、以下の結果を得た。

第一に、主な利用保護者の年代は30代であり、第一子のみが利用している割合は約8割であった。ほとんどが核家族で、何かあった時に頼れる親族がいる者も7～8割いることが明らかになった。

第二に、オープンスペースを知ったきっかけは、「口コミで知った」の回答がもっとも多く、次いで「インターネット」だった。

第三に、オープンスペースの利用理由として多く挙げられた項目は「子どもが喜ぶから」「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから」「設備や遊具が充実しているから」「ストレス解消やリフレッシュできるから」「同じような年齢の子どもとの交流ができるから」「子どもを集団になれさせるため」であった。

第四に、オープンスペースに対し、8割以上の利用者が「満足」と回答した。

第五に、子どもについての気がかり・心配ごととして、5割以上の者が「食事」を挙げ、次いで「からだの成長」「トイレトレーニング」の割合が高いことが明らかとなり、これら気がかり・心配ごとの具体的な記述内容から、利用保護者一人ひとりへの丁寧な支援が必要であることが示唆された。

第六に、利用保護者自身のこととして、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」「子どもにイラッとすることがある」の回答割合が高いことがわかった。一方、もっとも回答割合の低かった「子どもに手をあげて後悔することがある」について、頼れる親族がいながらも、約3割の利用保護者が子どもに手をあげてしまうような状況に置かれていることが明らかになった。また、第一子の子のみの世帯を除いた利用保護者自身については「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」の回答割合がもっとも高かった。

本学オープンスペースにおける第2,3回調査項目を第1回よりも一歩踏み込んだ内容にしたことで、利用者への支援の成果や満足度、課題がより明確になり、オープンスペースが気分転換のできる場所、安心できる居場所として、さらに、他の利用者となつなぐ場所、交流を深める場所としての機能を果たす必要性をより強く認識できた。

今後、子育て支援の質をさらに高めるものとして、どのようなプログラムを用意すべきかや、子育てアドバイザーの利用者への関わり方について、保育士の協力も得ながら検討していきたい。

【謝辞】

質問紙調査にご協力下さいましたオープンスペース利用者の皆様と、本事業に携わる保育士、外部講師、そして、事業を支えて下さる地域のサークルの皆様、本学の教職員に厚くお礼申し上げます。

注

- 1) 「おかえりの会」は、オープンスペースが閉室する時間（15:00）の10分ほど前から保育アドバイザーである保育士が企画し、日替わりで季節や行事、天候などに合わせた絵本の読み聞かせや、エプロンシアター、ペープサート、伝承遊び、歌などの親子のふれ合い遊びを提供している。

元来、幼稚園など降園前の時間帯にクラスで集まりのときを持つことを「帰りの会」「帰りの集まり」などと呼んでおり、1日の生活の終わりを「今日も楽しかった」「明日もまた幼稚園に行きたい」という気持ちでしめくくるものである。

本学の保育士はすべて広島市内の保育所での園長経験があるため、その経験を生かした企画を計画・実施しており、子ども教育学部2年次の保幼コースの学生も少しずつこの時間を担当し、キャリア・サポートとして指導計画の作成について学びながら、子ども理解を実践的に深めている。

引用文献

ベネッセ教育総合研究所. 第2回妊娠出産子育て基本調査（横断調査）報告書2011年. (<http://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail.php?id=3316>, 2015年12月5日閲覧)

- こどもケアセンター運営委員会. (2015). 「い〜ぐる」開設から1年の運営状況と今後の方向性の一考察, 広島都市学園大学子ども教育学部紀要, 2 (1), 1-8.
- 内閣府 子ども・子育て支援新制度 (<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/index.html#toukei>, 2015年12月5日閲覧)
- 田丸尚美. (2013). 母親の育児と支援ネットワーク：地方都市における子育て環境調査を手がかりに, 日本家政学会家族関係学会誌, 32, 29-38.
- 富田道子. (2014). 大学地域子育て支援事業の役割に関する一考察：利用者への質問紙調査から, 広島都市学園大学子ども教育学部紀要, 1 (1), 61-70.